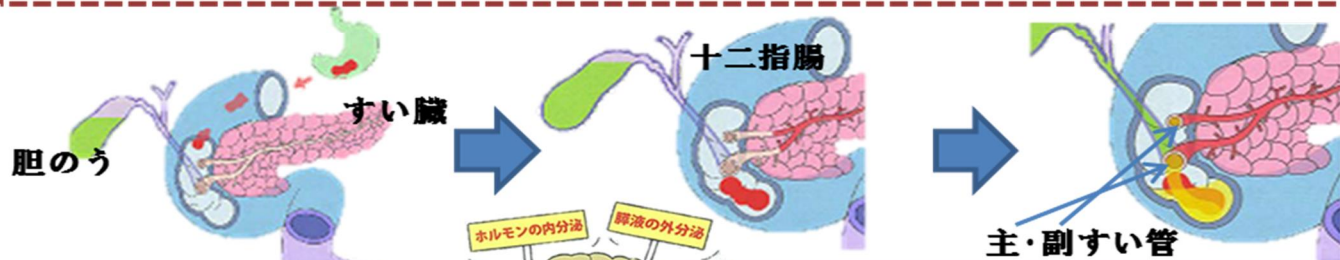




すい炎



すい臓は、食べ物を消化する「すい液」を作り(外分泌機能)、十二指腸に送り出す働きをしています。また、血液中の糖分の量を調節するホルモンを作り(内分泌機能)、血液のなかに送り出す働きもしている。飲食の数時間後に、突然はげしい腹痛に襲われる急性すい炎。お酒の飲み過ぎや脂っこいもの食べ過ぎで、膵臓に炎症がおきるのが原因。重症になると命にかかわることも。また、慢性化するとすい臓の大切な働きが失われることもあります。



口の中に入った食べ物は食道から胃を通り、十二指腸に運ばれる。その間消化され、粥状に。

食べた物が十二指腸に着くと、十二指腸からホルモンが分泌され、刺激を受けた膵臓は、「すい液」を「すい管」を通して送り出し、さらに、胆のうからは胆汁が分泌される。よって腸内での消化活動がスムーズに行われている。

すい臓の中には、「ランゲルハンス島」と呼ばれる細胞の集まりがあるが、その中のアルファ細胞では「グルカゴン」、ベータ細胞では「インスリン」という血液中の糖分を調整するホルモンがそれぞれつくられる。



それがー!!

急性膵炎

慢性膵炎

すい液にふくまれる消化酵素により、すい臓自体が消化されてしまう病気。お腹の上の部分(みぞおち部)に激しい痛みが起こり、吐き気や熱がでることも!

すい臓に何度も炎症が起こると、すい臓の細胞が壊され硬くなり、すい臓の働きが失われていく。みぞおちや背中部分に痛みが続き、下痢になったり、腸にガスがたまったりを繰り返す。また、すい臓に結石ができたり、インスリン分泌低下により血糖コントロール不全で、**糖尿病を引き起こすことも!**

原因!!

膵液の分泌が多すぎたり、すい管をスムーズに通ることが出来ず膵臓内に滞ってしまうと、膵液がすい臓内で活性化し膵臓自体を消化し始め、膵臓は自分で作った膵液に溶かされ炎症を引き起こす。主な原因は、**お酒の飲み過ぎや胆石**。お酒を大量に飲むと、すい液の分泌が活発になり、膵臓にあふれることで自己消化を起こすことになる。普段お酒を飲まない人でも急に大量にお酒を飲んだときに起こることも。(男性の急性すい炎はアルコール性タイプが半数以上を占める)また、**肉類や揚げ物をたくさん食べた後に、急性すい炎を起こすこともあるが、これは、脂肪分を大量に摂ったことが原因**。一方、女性には、胆石が原因のすい炎もみられるが、**胆石も脂肪分の多い食事の摂り過ぎなどにより、胆汁が石のように固まることで膵臓の出口をふさぐ結果となり、すい炎を発症する**。

慢性すい炎の場合は、軽症のうちには、みぞおち付近の痛みを胃痛や胸の痛みと間違えやすいことから、受診せず市販薬などで対処しがちなため、慢性化させてしまうケースが多い。それが繰り返されることで、膵臓がダメージを受け続けた結果、すい液の分泌量が減ってしまい痛みも少なくなり、膵臓機能が悪化し次第に固く縮んでいきます。膵臓の機能不全を起こすと食べ物を消化しにくくなり、**下痢や脂肪便が続く**。

直ぐ受診を!!

